

# 三里木駅前商店街

(三里木商工繁栄会)

熊本県菊陽町

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

地域活性化に向けた本格的な取組に着手。地域の声に耳を傾け構築した「三里木商店街の未来希望図」の実現を目指す。

## 基本データ

所在地	熊本県菊池郡菊陽町津久礼
人口	約 4 万人（菊陽町）
電話/FAX	096-232-2549 /096-232-2549
会員数	52 名
店舗数	52 店舗（小売業 5 店、飲食業 20 店、サービス業 5 店、金融業 3 店、不動産業 2 店、その他 17 店）
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	サラリーマン、家族連れ（親子）/50 歳代、40 歳代

## 商店街概要

現在、人口増加率で日本屈指の地域となっている菊陽町。熊本市東部のベッドタウンとして、昭和 50 年代に都市化が進んだ。菊陽町の中でも最も早く都市化が進んだのが、旧国鉄三里木駅前の商業集積地であった。

昭和 58 年に地域の発展に寄与する目的で駅を中心にした事業者組織「三里木商工繁栄会」が設立。その後も都市化が進行し、地域には大型商業施設も開業。商店街は物販・飲食を含む小規模事業者の集まりで、店主の顔と腕が売りの専門店が立ち並んでいる。

人口増加に伴い、商店街を訪れる人の数も年々増加傾向。競合する全国チェーン店との差別化を図るため、近年は地域住民のニーズに即したイベントなどの開催や、個店の魅力強化に取り組んでおり、商店街組織と個店との双方がスキルアップすることで魅力ある地域づくりを進めている。

## 取組の背景

### 商店街の羅針盤づくり

三里木駅前商店街では、昭和 58 年の設立以来、商店街として継続的に行っている活動はお祭りのみで、地域の活性化に向けた本格的な取組は実施していなかった。しかし、近年地域の人口が増加していることと、競合の波が押し寄せていることから、商店街の現状について若手会員を中心に徐々に強い危機感を感じるようになっていった。

そこで、まずは商店街全体の将来ビジョンを描くため、平成 23 年に熊本県が主催する「あきんどリーダー塾」に参加し、約 1 年にわたり次世代リーダーの育成や商店街相互のネットワークづくりなどを学んだ。以降、毎年新たな受講者を参加させており、商店街の組織強化を継続している。

平成 26 年度からは、株式会社全国商店街支援センターの研修制度を活用し、「おるげん街づくり会議」と題した研修会を実施。活性化計画を作成するため、専門家を交えた会議を月 1 回のペースで開催した。

この取組では、市場調査として、近隣の小学校の父兄や町内にある大企業の工場の従業員など、会員各自のネットワークを駆使して地域住民の期待や要望の把握を行った。調査はこの取組のために編成したチームごとに行い、若手リーダーが各チームを率いる形で会員自ら作成した設問や集計方法を用いた。

また、研修会開催日以外の日でも、会員同士が夜

ごと集まり意見を交わし、ニーズ調査の設計・実施・分析までひとつずつ丁寧に進めていった。

これらの取組により、会員相互の客観的な理解が深まり、商店街の方向性を共有できる「商店街の羅針盤」が定められたのである。



商店街の様子

## 取組の内容

### 「三里木商店街の未来希望図」を支える 3 本柱

地域住民のニーズや自分たちの考える強みなどを活かして策定した商店街の羅針盤が、「三里木商店街の未来希望図」だ。このビジョンの実現を目指し、平成 26 年度から具体的な取組に着手した。

事業の方向性は、①「安心・安全な商店街づくり」、②「親子がふれあえる商店街づくり」、③「熊本特産の馬肉と菊陽町特産のにんじんを利用した食の街づくり」の 3 本柱である。

まず①については、近隣の大規模商業地域に比べて商店街の夜が格段に暗く、車の事故もたびたび発生しているという問題を解決するため、街路灯や防犯

カメラの設置に向け行政とともに協議を重ねている。これまで長い間放置されてきた課題だが、調査を実施し地域住民のニーズを把握したことで早急に取り組む必要があることが会全体で認識された。

②については、他地域からの転居により子育て世代が増加してきたことを受けて、「親子ふれあいバザー事業」を継続的に実施している。今後は空き店舗を活用した子育て世代向けの事業の実現に向けて調整を行っていく。

③については、馬肉とにんじん、地元醤油、味噌を使った「馬か鍋料理」を会員の各店独自で新たに開発し、期間限定で販売。期間中は各参加店舗でのスタンプラリーを実施するとともに、無料試食会やコンテストを開催するなど、複数店舗の利用促進と賑わい創出のための工夫を凝らした。来店者に対しては店主自らヒアリングを行いさらなるサービス向上に努めている。



馬か鍋コンテストの様子

「馬か鍋料理」の取組は平成 28 年度で 3 年目を迎え、三里木地域らしい B 級グルメとして徐々に浸透してきている。



馬か鍋

その他、グループコンサルティングの手法による研修を通じて個店強化についての取組も実施中。店

舗と店舗が切磋琢磨しながら、店舗間の連携体制も強化されている。

## 取組の成果

### 商店街内の結びつきを強め、事業を推進

「馬か鍋」のスタンプラリー事業では、期間終了後に他業種の会員も含め商店街全体で反省会を実施し、良かった点や改善点を協議している。これにより、会員みんなが商店街の取組を「自分事」とする関係の構築が進んでいる。

①「安心・安全な商店街づくり」と②「親子がふれあえる商店街づくり」については、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の影響で一時中断してしまっただが、震災に備えた啓発の取組を加味しながら、地道に進めていく予定だ。

また、個店強化については、特に積極的に取り組んだ若手や中堅経営者の店舗で対前年比の売上が 1 ~ 3 割増という結果につながり、会員相互の結びつきも以前にも増して深まった。

## 実施体制

行政のほか、熊本県立大学と連携した街づくりの創造に取り組んでおり、その提言や成果物を商店街事業に反映させてブラッシュアップを続けていく。

設立以来任意団体として会員からの年会費で活動経費を賄ってきたが、今後は地域住民などの幅広いニーズに対応するため、新しい組織の在り方を模索している。法人化することでより安定した社会的に信頼される団体への進化を検討中だ。

また、次世代のリーダーを育成しながら、防災に強い街づくり、防犯を意識したより安心・安全な街づくりを目指すこととしている。

## キーパーソンからのコメント



三里木商工繁栄会  
副会長 宇野 功一

### 地域の方々が集える場の創造

取組のポイントは、近隣にある郊外型の商業地域に埋もれて陳腐化するのではなく、これらの強力な集客力を利用することで、地域の方々が集える場を創造することを目指した点です。

そのためには、まず、地域の方々へのアンケートを実施して、商店街を客観的に分析し、これからの未来に自分たちがどうあるべきか、みんなで話し合う必要がありました。

この取組の結果、将来ビジョンを策定することができました。

**地域活性には個店の魅力向上は欠かせない**  
日常業務に追われながらも、個店ごと

の強みや弱みを客観的に分析することで、他の店では真似できない専門的に優れたサービスの提供に磨きがかかり、実績が出てきています。

商店街の魅力づくりは、「商店街自体の魅力づくり」と「その商店街を構成する個店ごとの魅力づくり」。これらは車の両輪のような関係であると思っています。

これから先、熊本地震からの復興に向けて、これまでに描いたビジョンを具現化すべく、商店街のみんなで頑張っていく、地域の方々から愛される商店街を目指します。

がんばるばい熊本、がんばるばい三里木。